

## 令和2年度第1回土佐清水市総合教育会議 会議概要

■開催日時：令和2年8月7日（金）14:00～15:02

■開催場所：市役所 2F 市長応接室

■出席者

構成員：泥谷市長、山下教育委員、矢野川教育委員、弘田教育長  
磯脇副市長（オブザーバー）

事務局：伊藤こども未来課長、和泉こども未来課長補佐、永野こども未来課指導主事  
横山企画財政課長、池企画財政課長補佐

◇会議次第【司会進行：横山課長】

1 開会【泥谷市長あいさつ】

2 議事

(1) 土佐清水市教育委員の学校・保育・幼稚園及び指定管理施設の訪問を終えて

- ・新型コロナウイルス感染予防対策について
- ・施設管理者及び設置者への提言について

(2) 「学びの保障」のための人的・物的体制整備について

(伊藤こども未来課長より説明)

教育委員会では、毎年、学校や保育園、幼稚園、2年毎に指定管理施設を訪問している。今年度は、以下の日程で訪問し、学校現場の課題や新型コロナウイルス感染症予防対策等について意見交換を行うとともに指定管理者から現状等の説明を受けた。

7月9日、足摺岬小学校、足摺岬保育園、しみず幼稚園

7月13日、幡陽小学校、清水中学校、中央公民館、市民体育館、市民文化会館、学童保育、市民図書館

7月14日、下ノ加江小学校、清水小学校

7月16日、下川口小学校、三崎保育園、下川口保育園、三崎保育園、下ノ加江保育園

小中学校が学校を再開した5月11日から学校での感染予防対策として、各学校で感染対策フローを作成し保護者に通知した。保育所、幼稚園へも同様に保護者へ通知した。

毎年各校から支援員の配置について希望調書の提出があり、以下の3種類の支援員を配置している。

●特別支援教育支援員

普通学級の中でも発達障害の疑いのある子どもや学習面で課題のある子ども、自閉傾向、多動傾向など特別に支援の必要な児童生徒に寄り添い支援・見守りを行う。

●多忙化解消支援員

事務員のいない小規模校では、校長がメールの処理やプリントの印刷等広範囲にわたって事務を行っている一方、児童生徒数が何百人もいる大規模校では事務が多い。教員の多忙化を解消するため、事務的業務をサポートする。

## ●放課後等学習支援員

教員の補助として、丸つけやそれぞれの学習課題に応じ、きめ細かな支援を行う。

### 【下ノ加江小学校】

不登校児童への対応や支援の必要な児童への対応としては、各機関と保護者や地域との連携が重要と考えている。コロナの関係で自学力の育成、自分で考える力を鍛える点にも取り組んでいきたいという話があった。

学校に配置された支援員がクラスに入ることで子どもへの目配り・気配りができ、安定した授業が成立している。丸つけ、間違っただけに対して適切な支援がなされており学力定着にもつながっているとのことであった。

### 【幡陽小学校】

基礎基本的な学力に課題がある。特性傾向の強い児童があり、2つ以上のことが難しい子どもに対しては、視覚情報や個別対応が必要であるとのことであった。

### 【足摺岬小学校】

保育園から同じ子どもたちが、そのまま小学校へ就学しているため、慣れ合いになってしまって、自分の考えを口に出さなくてもお互いが分かり合える。みんなの前で自分の意見を発表することが苦手になっている子どもがおり、全体で発表する場を作って、自分の考えをみんなの前で発表する力をつける取組を強化したいとのことであった。

### 【清水小学校】

児童の生活面について、家庭への支援が必要な児童が多く、厳しい環境にある子どもたちが複数いるため、積極的な支援が必要とのことであった。発達障害等の診断名がついていない児童で学習面に課題があり、みんなと同じクラスで授業ができていない子どもに対しては、担任と支援員が情報共有を行いながら支援しているとのことであった。

### 【三崎小学校】

家庭学習では、特に6年生の自主学習ノートが素晴らしく、しっかりと家庭学習ができており、そのノートを廊下に掲示して下級生のお手本となっていた。目の前に海や山といった豊かな自然があり、生きた教材を工夫しながら、環境学習に力を入れていた。引き続き、地域とともに取り組んでいきたいとのことであった。

### 【下川口小学校】

完全複式のため2学年分の授業の準備や校務分掌など一人の教員にかかる業務量が多いことが課題。また、不登校ゼロを維持するために日々の情報交換にも努めているとのことであった。

### 【清水中学校】

学力課題への取組を行い、今後学力を定着させ全国平均並みにもっていきたい。基礎基本の定着ばかりでなく、あきらめが早い傾向がある生徒もいるということで、自分で考えさせることが必要とのことであった。

(学校等の訪問を終えて、委員の感想)

### 【山下委員】

全校において、落ち着いて授業に集中できている様子が見られた。毎年、訪問しているが、明らかに学校の雰囲気が変わって落ち着いている。先生と家庭の信頼関係があり、勉強に集中できる環境を作ってくれているのではないかと印象を受けた。家庭環境に事情を抱え支援が必要な子どもが、どの学校にも一定数いて、支援員の力がかなり大きいと思った。その点、本市は手厚く人数を配置していただいているので環境づくりが上手いのではないかと感じた。

保育園については、足摺岬保育園が、今は一番古くなってきており、ホールにエアコンが無いことや手すりの木の部分が腐ってきているという話を伺った。（※今年度中にエアコンの設置は実施される。）他の保育園については、新しくきれいであった。

【矢野川委員】

5年ぶりに学校を訪問したが、5年前と比べて、ずいぶん子どもたちが落ち着いて生活も学習もできていると感じた。また、各教室にクーラーがあって、子どもたちが学習に向き合える環境になっていると思った。幡陽小学校と下川口小学校の2校については、完全複式校であるが、複式のスタンダード化が図られていて学力がしっかりとついていると感じた。

家庭環境の問題がある子どもが多い。コロナ対策については、学校の入口付近で消毒を徹底するなど指導がきっちりされていると思う。校舎内は環境が整備されているが、校庭に草が生えているのが目につくなど、その辺の環境整備について支援が必要であると思った。

保育園については、足摺岬保育園以外は新しい建物で、そういった部分で子どもたちにとっては良い環境で保育されていると感じた。訪問したのが、昼寝の時間であったが、先生の話や話を聞くと、のびのびと育てているように感じた。

【弘田教育長】

学校については、教室やそれ以外の箇所も衛生的できれいな状態である。全般的に授業中にふざけている子どもがいない。学習障害などの検査は受けていないものの、疑わしいという子どもが増えている。そういった中で、あのように落ち着いて授業ができているということは、支援員の方々が先生方と一緒に、子どもたちが授業から外れないようにフォローしてくれているからだと思う。

【永野指導主事】

本市は他市と比べると、支援員の人数や環境整備などの点ですごく手厚いと感じる。支援員のおかげでプリントの印刷やコピー等をお願いでき、その間に教師は教材のことを考えたり、子どもと接することができる。

(15:02 会議終了)